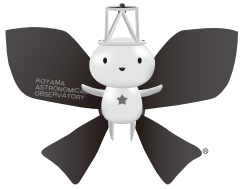
京都産業大学　神山天文台

KAO NEWS

Koyamatenmondai-News

2023 5月



神山天文台マスコットキャラクター
ほしみ～るちゃん ®

Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
	1 ×	2 ×	3 × 憲法記念日	4 × みどりの日	5 × こどもの日	6 × ◯
7 ×	8 ×	9 ×	10 ×	11 ×	12 企画展「隕石 × 小惑星」（5/12～8/6） ◑	13 天文学講座 15:00-16:00
14 ×	15	16	17	18	19	20 ●
21 ×	22	23	24	25	26	27 企画展 ギャラリートーク 15:00- ◑
28 × ◑	29	30	31			

施設見学　9：00～16：30
土曜日は天体観望会実施日のみ 14：30～17：30

天体観望会 19：00～21：00
（定員あり / 要予約）

× 休館日

◑ 月の形（満月・新月・半月および観望会で月が見えるとき）

事務室閉室日
（問い合わせ等対応不可）

施設見学

1階常設展示フロアでは企画展「隕石 × 小惑星」（5/12～8/6）、また、3階では荒木望遠鏡（国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡）の見学が可能です。

天体観望会

荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察することができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。
また、宇宙の3D 映像上映会を開催します。

よくある質問？

観望会でよく聞かれる質問にお答えします★

？ 春の星の見つけ方のポイントは？

北の空の高いところにひしゃくの形の北斗七星を見つけましょう。ひしゃくの持ち手のカーブを伸ばして行くと、東の空にオレンジ色に輝く星 アルクトゥルス（うしかい座）があり、さらにカーブを伸ばして行くと、南東の空で白く輝く星 スピカ(おとめ座)があります。このカーブは春の大曲線と呼ばれます。、街明かりの少ないところでは、スピカの先に小さな四角形に星が並んだ からす座がみつかります。

？ 荒木望遠鏡でどれくらい遠くまで見られるの？

専用の観測装置を使用すると、超新星のような明るい天体は 50 億光年先まで観測することが可能です。天体観望会では、条件がそろえば 2300 万光年先のりょうけん座 M51（子持ち銀河）や 14 等級の明るさの冥王星までを見ることができます。

？ 流れ星って本当に星が落ちてくるの？

流れ星の正体は、夜空に輝いている星（恒星）が降ってきているわけではなく、宇宙にただよっている小さなチリです。それらが猛スピードで地球の大気にぶつかって光ります。チリの大きさは数ミリから数センチくらい，重さも 1 円玉より軽いものがほとんどです。ほとんどのものは地上に届く前に蒸発してしまいますが、まれに大きなものが地上まで降ってくることがあります。これが「隕石」です。

企画展

隕石 × 小惑星

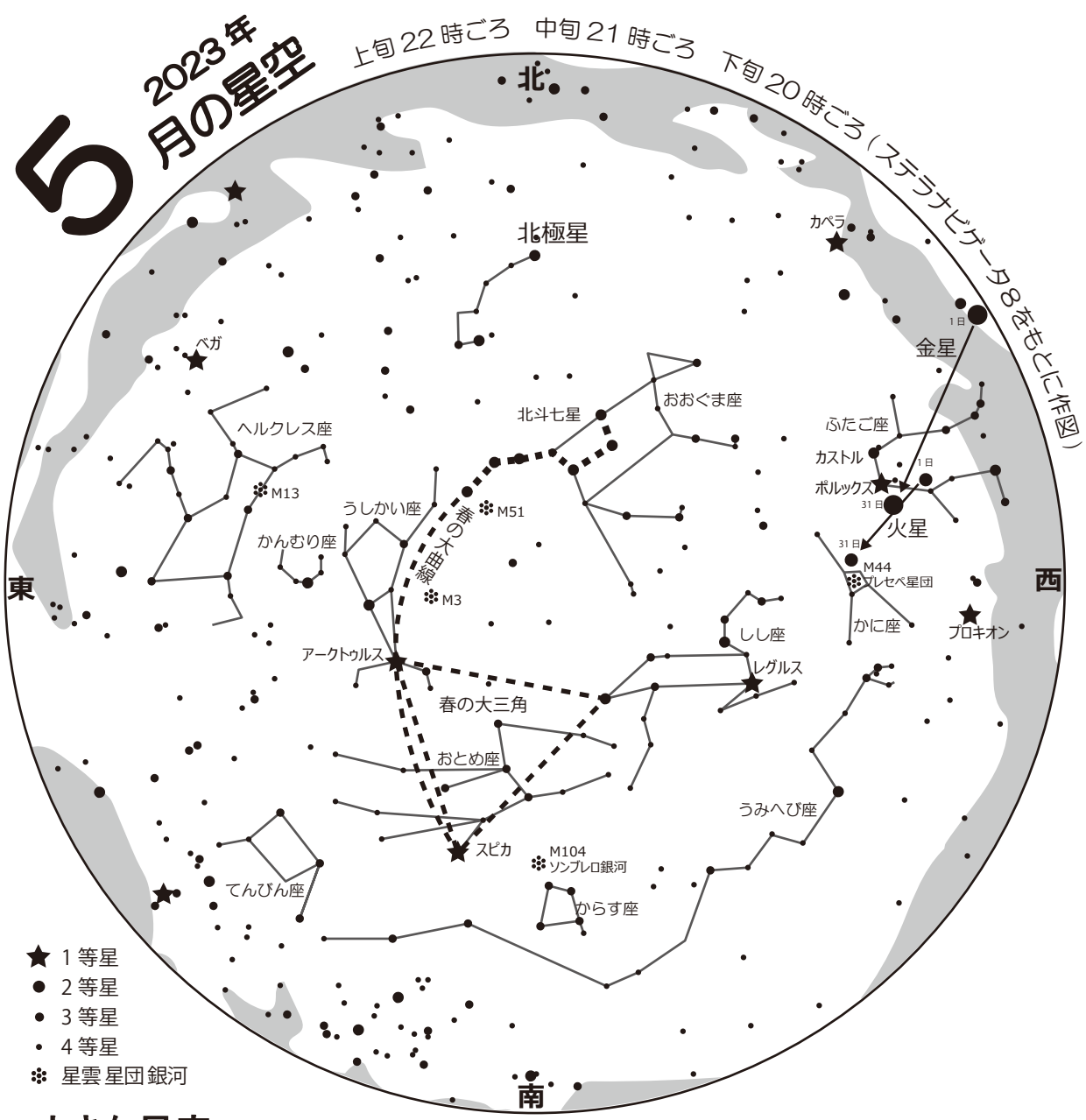
太陽系の起源を探る

5 月 12 日（金）～8 月 6 日（日）開催！

私たちの太陽系はいつ、どのようにして誕生したのでしょうか。
太陽系が誕生した当時の記憶は、小惑星や彗星といった太陽系小天体に残っているほか、地球にいながら手に取ることができる「隕石」にも残されています。本企画展では、実験室での隕石の分析と小惑星の地上観測、宇宙探査を結びつけ、隕石から得られる太陽系の起源について紹介します。
詳細・関連イベントなどは、企画展の WEB ページ（右 QR コードから）をご覧ください。

タルダ隕石（神山天文台所蔵）

発行 京都産業大学 神山天文台
〒603-8555　京都市北区上賀茂本山
☎ 075-705-3001　@KSU_KoyamaObs
https://www.kyoto-su.ac.jp/observatory/



大きな星座

きらびやかな冬の星座が西の空へ傾くと、春の空はとたんに星が少なく、のんびりとした印象になります。88ある星座のうち、大きな星座ベスト3が春の空に勢ぞろいしてます。
3位はおおぐま座。熊のしっぽが「北斗七星」です。2位はおとめ座。手に持つ麦の穂のところに一等星「スピカ」が輝きます。堂々の1位はうみへび座。東西に長い姿なので、頭から尾までを一度に見られる期間はそう長くありません。

2023年5月 見ごろの天体

★二重星（にじゅうせい）：Double star

春の夜空では、いくつかの重星を観望することができます。重星は、肉眼で見ると1つの星ですが、望遠鏡を覗くと2つの星に見えます。
北斗七星を形作るおおぐま座ζ（ゼータ）星（ミザール）は、肉眼でもアルコルとペアになっているように見えますが、これは同じ方向に偶然星がある「見かけの二重星」と考えられます。一方で、ミザール自体は2つの星がペアになった連星です。望遠鏡を使うとミザールの2つの星を見ることができます。その他、りょうけん座コル・カロリやしし座アルギエバも観察しやすい二重星です。

★惑星状星雲（わくせいじょうせいうん）：Planetary nebula

太陽程度の重さの恒星は、一生の最期に水素ガスを使い果たして赤色巨星となった後で、外側のガスを周囲に放出します。この放出されたガスが、中心に残った星の残骸が放出する紫外線を受けることで輝いて見えるのが、惑星状星雲です。望遠鏡で見た時に、まるで惑星のように丸くほんのり色づいていることから、このような名前がついていますが、その正体は太陽のような恒星が終末期を迎えた姿です。おおぐま座には、ふくろう星雲と呼ばれる惑星状星雲M97があり、よく晴れた夜に望遠鏡を向けると、丸い形のガスの中に小さな黒い丸が2つ見える様子が、ふくろうの顔のように見えます。夜空が真っ暗になってから、惑星状星雲の淡い輝きをお楽しみください。

★赤色巨星（せきしょくきょせい）：Red giant

恒星は安定して輝く時期が長く続きますが、恒星の内部の水素を使い果たすと恒星の内部が縮み始め、その際に発生する熱によって外側のガスはさらに外へと膨張し、巨大な星になります。ガスが膨れると表面の温度が低くなるため、赤色に見えます。うしかい座のアークトゥルスは赤色巨星で、直径は太陽の約20倍です。

★球状星団（きゅうじょうせいだん）：Globular cluster

球状星団は、数十万の恒星の集まりです。私達の銀河系の中には、約150個の球状星団があります。球状星団の中の星たちは非常に高齢で、100億歳以上の星もたくさんあります。夏には、ヘルクレス座のM13、りょうけん座のM3、へび座のM5などの球状星団が見られます。